

鹿市医狂壇



562 樋口 一風 選

兼題「運動会（うんどかい）」

天

紫南支部 加治屋犬好

運動会好た娘ん前で転倒けつ

（唱） あいやしもたち泣こそな気持

（評） 好きな子が応援席にいるのは知っていたので、良いところを見せようと、緊張して走りました。それが裏目に出て、事も有ろうに彼女の目の前で、無様に転倒してしまいもう人生は終わったと、少年は泣きたくなりました。

純粹な少年の頃の話で懐かしくなりました。この少年の気持ちを考えると可哀想。外連味の無い素直な句に仕上がっています。

地

紫南支部 二軒茶屋電停

初孫ん運動会で爺あ寝れじ

（唱） ちゃんと出来いか要らざらん心配

（評） 待望だった初孫の運動会の、前夜の爺ちゃん、心配で心配で眠れなかったらしい。でも人間はそれなりの対応が出来ると、ご存じのはずの爺ちゃんにしてこれですから、孫と言うのは余程可愛いものなのでしょう。

「爺は寝れじ」でそれが分かります。かねての好々爺ぶりが想像できます。

人

伊敷支部 谷山五郎猫

凄ぜ速え娘い見惚るい運動会

（唱） 見事か脚があれよあれよち

（評） 同じクラスのマドンナは勉強が出来て、スタイルも良い女の子なので、ひそかに好意を寄せていました。

そのマドンナは足も速いのです。だから運動会でも何をさせてもずばぬけているのです。徒競走や学級対抗のリレーなど、アツという間に相手を引き離して優勝するのです。

その走りたるや、全校の男子生徒のあこがれの的で、すっかり見惚れてしまったという、初心な少年の話です。

秀逸

五客一席

上町支部 吉野なでしこ

運動会出番が多こし忙し親

（唱） 席が温もつ暇どま無しで

五客二席

伊敷支部 谷山五郎猫

運動会棒あ倒さじ逃げ回つ

（唱） とてもじゃ無かが逞し敵

五客三席

紫南支部 加治屋犬好

運動会フオークダンスい胸躍つ

（唱） 考げた丈で止まん動悸

五客四席

伊敷支部 谷山五郎猫

運動会しつ嫌れじやつた徒競走

（唱） 先祖代々最後尾つ走つ

五客五席

上町支部 吉野なでしこ

場所取いで弁当は次の運動会

（唱） 朝ん早よかあ莫座を抱えつ

選者吟

一風

俺似じやろ今年も後尾の徒競走
餓鬼大将運動会いな娘け持てつ
子無し夫婦で誠で寂ね運動会

作句道場

兼題の「運動会」が無くても、句を一読して運動会のことだとわかれば、「運動会」は入れなくても、いいと思います。選者吟の一句目は、運動会が入っていないが、「今年」と「徒競走」で、運動会だと分かります。但し、どっちにでも取れる句は、よくありません。

薩摩狂句鑑賞 199

薩摩狂句曆

三条風雲児著 から
（平成元年五月一日発行）

山おこがつん折るいよな田がでけつ

野間口 鈴女

「やまおこ」というのは、竹または木の両端をとがらせた、天秤棒ほどの長さの担い棒のことである。稲束や刈った草の束などに突き刺して担ぐときに用いる。

現在では、こうした道具を使うようなこともないだろうが、この句の場合、稲束を担いだら、「やまおこ」が折れんばかりに実がついていたのである。生産者米価の引き下げがあろうと、農家にとって豊作は嬉しいことである。

休刊日朝から一日日が長こし

桜山 仙人

今日から、第三十六回新聞週間が始まる。今年の標語は、「書く勇氣伝える真実待つ読者」に決まった。また新聞少年の日の標語としては、「朝風に走れ青春新聞少年」が選ばれた。

毎日、新聞が配られるのは当たり前のように思っているせいか、配る人の苦勞を忘れたり、新聞のありがたさを忘れてしまいがちである。

たまたま新聞休刊日に、何か物足りない様な、一日中落ち着かないような気持ちになったことをさっと読んであるのがこの句。

薩摩狂句誌「洪柿」八六六号 雑吟から

（令和八年九月一日発行）

太田 太陽

知たん方が夢ん続くば見いがなつ

（唱） 要らん事どま知らんが仏

下手な句が頭で貼付て寝やならじ

（唱） 寝てん覚えてん頭で居すわつ

瀬戸口 捨楽

温き温きち扇風機をば抱つ歩れつ

（唱） 一つジュ足らじ片手にやアイス

窪 三難坊

狂句募集

◎12号

題吟「歳暮（せば）」

締切 令和8年11月6日（金）

選者 樋口 一風

漢字のわからない時は、カナで書いてご応募くださいば選者が適宜漢字をあてさせていただきます。

◇応募先 〒八九二一〇八四六

鹿児島市加治屋町三番一〇号

鹿児島市医師会『鹿児島市医報』編集係

TEL 〇九九一二六二一三七三七

FAX 〇九九一二五五〇九

E-mail:hou@city.kagoshima.med.or.jp